

# さくらみ川



第四十六号 平成一五年七月十五日  
 熱日高彦神社 社務所  
 TEL 62-0241 FAX 62-4861  
 メール [atuhitaka@hitaka.org](mailto:atuhitaka@hitaka.org)

なかなか梅雨が明けず、境内のセミの声もまばらです。  
 そんななか盛夏の訪れを知らせてくれたのが大輪の山百合の花。  
 公園や、石段を登りきった切通しの両側に、茎が折れるのではないかと心配してしまふほど大きな花が咲き誇っています。例年梅雨の前に斜面全体を刈り払っていたのを、今年はほんのちょっと注意深く山百合の茎を刈り残してみたのでした。大成功と喜んでいたら、図らずも小島先生から幼少の思いでも織り交ぜたヤマユリについての興味深いお話しをご寄稿いただきました(4頁に記載)。百合がおわるとやがて秋の七草が楽しめます。山中の境内なればこそ、山中ならではの夏の風情があるのです。

冷夏を吹き飛ばせ!

8月5日 夏季例祭

新神楽<sup>たきき</sup>/紙とつろう/打上げ花火

期日 平成十五年八月五日(火)

日程 午後二時 紙とつろう掲揚

三時 触れ太鼓

五時 祭典

六時半 神賑行事

巫女舞

神楽四幕

八時半 打上げ花火

終了

奉納 巫女舞(地元女子)

神楽(神楽会・こども神楽)

紙とつろう(枝野小学校児童)

枝野幼稚園児

角田養護学校児童

はぐくみ学園利用者

奉仕 有志会によるふるまい

生ビール 焼き鳥 かき氷 ジュース

打上げ花火の奉納を承ります

一口参千円 当日まで

日高橋下の道路は工事中につき要注意!

## 百人の神輿奉仕者集う！

### 春季例祭滞りなく斎行

四月六日、晴天の下春季例祭が盛大に斎行された。今年は日曜日と重なり境内は多くの参拝者でにぎわった。

体制を整えて二年目の神輿渡御。奉仕者も神社関係者、担ぎ手、警備協力者など、述べ百人以上となり、沿道やお旅所でたくさんの人達の声援を受け、長い行程の神輿渡御を力いっぱい担ぎ切った。

### 齋藤まつ子さんが白丁縫製奉仕

また、昨年の島田の佐藤けい子さんに続き、今回石川口の齋藤まつ子さんに担ぎ手が着る新しい白丁の縫製をご奉仕いただいた。石川口や島田のお母さん方の空腹調理などは当初から続けられている。

祭典、神事に奉仕して頂いた方々、またそれを支えて頂いた氏子の皆さんに心より感謝申し上げます次第である。



## 神輿世話人会で今年の総括

### 四月六日を継承する形で

神輿世話人会は七月六日神社社務所で総代と合同で今年の神輿渡御の反省会を開き、今年の総括をした。以下まとめ。

神輿世話人が総代と協力して若者たちに神輿担ぎを勧め、今年は八十人を越える担ぎ手でたいへん賑やかな祭となった。パンフレットを持って各家を回り、若者たちに神輿渡御の意義を理解してもらい、若者たちの郷土文化継承への意気込みをたかめ、ふるさとづくりの要として神輿に参加してもらったこととなった。昨年同様高校生から五十歳代まで幅広い年代層になり、去年に引き続き参加した人も多く、縦の軸での人間関係の良さを味わってくれたようであった。背の高さを調整するなど、さらに担ぎやすい環境を整えられるよう工夫していくべき。日曜ということでも若い人も沢山参加できたのは事実。それも考慮しながらも、しかし、当初六日で継承すると決めたのだから、問題が生じない限りそれを基本として、維持できるよう努力していく。

なお、事務局の不備で全員に意見を頂くことができなかった反省もふまえ、日を改めて奉仕者の懇話・懇親の機会を設けることとした。

## 社頭 あれこれ

### 夏祭りに間に合わなかった

#### 日高橋下の護岸工事

市道日高下線沿いの桜井川で日高橋を下った部分の護岸の石垣底が削られて危険な状態になっていたため、改修工事が春祭直後に始まりました。ところがこれが遅れて、夏祭りに間に合わなくなりました。そのため路巾が半分になって通行しにくく、また駐車スペースが無いため、参拝者に不便をかけることとなりました。

どうぞお気をつけてお通り下さい。

### 大森山お山掛けの記

近年、大森山に登ってみたいという声がかれ、八十八夜をすぎた五月十九日に子ども会育成会、六月十五日に石川口大森会と万年青会の方々がお山掛け（登山）をしました。特に五月のときには、古里を離れた数人の方々が混じって、当時の懐かしいお話をして呉れたりしました。

その話によると、小学校の遠足でこの山に引率されて来て、初めて自分の住む伊具郡と太平洋に続く金華山を手取る様に鳥瞰して感動したこと。友達とともにおにぎりをほお





ばった思い出が時々思い出されて、もう登る機会がないのだからと諦めていたところこの登山の話しを聴いて、万障差し繰って誘いあってきたのだったということです。

古里の山つ

てそのような思いが託されるのだと言つことであれば、昨年から今年二月に掛けて登山道を刈払いして下さった方々の仕事の価値は高く、これからも、かつてのように小学校の遠足などでも登れるような整備が必要であると思われました。また分岐点などに案内標示のような物があれば、静かに登りたい人には便利であろうと思われます。

目黒家の館址と墓所、角田市で一番高い大森山、風情のある溜池群、麓の島田で取れる野菜やお米、そして黒豚や肉牛、今遊んでいる畑、称念寺や当社を繋ぎ合せる何かが出来る所ですね。ふるさと志向の近頃、私たちの掌の中で眠っている宝物の価値を見つめ直してみようではありませんか。

# 八月十五日のじつ

八月十五日は大東亜戦争の戦闘が日本の敗戦と言つ形で終結した記念の日です。

忠魂碑で朝八時頃から恒例の御霊祭をします。十二時から角田市忠霊塔で遺族会主催の慰霊行事があります。当然これらはいずれも市民参の皆さんとなたでも参加いただけます。

本来この日の慰霊

行事は、戦死者を含めて軍人や兵隊を「歓呼の声や旗の波」でもる手を上げて送り出した自治体や私たち住民が主催すべきものでしょう。情けないことであれから六十年になろうと言つのに、まだそれすら出来ていない日本はもう礼儀と言つものを忘れきってしまったのでしょうか。

傷痕軍人や退役軍人など生還された方々も今肩身の狭い恩給暮らしのまま余生を送っています。私たちのために命を掛けて戦った人たちは、その人たちや戦死した人たちを片隅に追



境内に建つ忠魂碑には島田・枝野の英霊が祀られています。8月15日を前に地元老人クラブが清掃奉仕し、花や線香がお供えされます。

い遣って、自分は「平和」に溺れて何にも考えないなどと言つのはどつちやら今の日本人だけのようです。日本がこのように小国ながら国際的に認められてきたのは、昔の日本人の礼儀正しさが国際的に認められていたことも預かっているようです。占領政策は間違っていた」と反省したマンカーサーがおに死んでも、その間違いを

忠実に盲信して来た日本人は、やはりその礼儀正しさの流れなのかもしれません。ね。十五日の正午のサイレンのときにふるさとまつりの

歌が街に流れ、マイクから大きな声で催し物を宣伝する自動車が慰霊行事の前を通過することさえありました。貴方もテレビで、天皇陛下も御立ちになつて黙祷されるときに一緒に黙祷をしていますか。もう一歩進んで忠霊塔や忠魂碑に参ってみませんか。

お日高さんの自然

### ヤマユリ



神社の公園の斜面にヤマユリが自生し、大事に保護されている。そのうちの一株は、十輪の花をつけた見事なもので今がちょうど見ごろである。

子供のころ土用近くになると毎年近くの山にユリ根(鱗茎)を掘りにいったものだった。掘ってきたユリ根を、母が早速一枚一枚はがしあんかけやきんとんにしてくれた。その母も、米寿を迎えたが健在である。わが家はかりでなく、ほとんどの家で土用の日やお盆にユリ根を食べる習慣が合った。角田では、鱗茎しか食べないがつぼみもゼンマイのように処理して、煮物や汁の実にして利用できる。なお、ユリの花として乾燥食品が売られているが、カンゾウのなかまの花である。あのころのユリ根の味がなつかしくて二、

三日前小田の山に行ってみた。ユリの花はほんの少ししか見られず、たった一輪の花をつけた貧弱なものだけだった。イノシシの食害で少なくなっただけという人もいるが、そのためばかりではないと思われる。人の手による乱獲と、ユリが育つような山が少なくなっただけと考えたい。

さて、ヤマユリは、山地や丘陵に生える単子葉植物・ユリ科の多年草である。自然の分布は、東北〜近畿で案外狭い。どこでも最近特に個体数が減少しており注目すべき植物の一つである。

角田市内では、ヤマユリ(ユリ属)のなかまとしてクルマユリやコオニユリなどが自生している。(小島和夫氏 記)

#### 図書紹介

『祈りのかたち』 宮城県の正月飾り刊行会編

日貿出版社 定価二六〇〇円+税



に特徴的な正月飾りを多数の写真と詳細な解説で紹介しています。ぜひご購入ください。

宮城県神社庁設立五十周年記念事業「正月飾り」きりこ「調査」の研究成果をまとめたものです。特に仙台以北

- 「ご奉納ご奉仕」
- 四区 佐久間孝治郎さん 竹蓐
- 一区 齋藤まつ子さん 白丁縫製
- 三区 佐藤 善一さん 月次祭神饌用野菜 祭典神饌用野菜等
- 各区 神社総代各位 間伐 搬出作業
- 横倉 塚目克子さん 月次祭神饌用野菜

### 社 頭 暦

七月 一日 月次祭  
二日 海の日  
八月 一日 月次祭

五日 神社例祭  
七日 七夕祭り  
十三、十五 日 祖霊祭  
十五日 忠魂碑慰霊祭

九月 一日 月次祭

#### 編集後記

低温と長雨に追い討ちをかけるように仙北を震源とする連続大規模地震が発生しました。被災地の皆さんには心よりお見舞い申し上げます。民家は言うに及ばず、震災を受けた歴史的建造物の再建はさらに困難を極めます。天変地異は必ず来ますが全く為す術がないわけではありません。でき得る限りの備えをすべきと改めて思っております。ホームページを大幅に変更しました。「さくらみ川」もきちんと掲載していきます。ご覧下さい。